

主題研究

心が通い合う人間関係をはぐくむ 道徳教育の在り方に関する研究

- 学級における道徳教育推進計画の作成と活用をとおして -

（第1報）

教科領域教育室

安藤 雅 博
工藤 彰 範

研究協力園・学校
花巻市ゆもと幼稚園
花巻市立湯口小学校
花巻市立湯口中学校

研究の概要

この研究は、学級における道徳教育推進計画の作成と活用をとおして、幼稚園、小学校、中学校における、心が通い合う人間関係をはぐくむ道徳教育の在り方を明らかにしようとするものである。

2年次研究の1年目である本年度は、心が通い合う人間関係をはぐくむためには、豊かな人間性や社会性を育成する必要がある、さらに、豊かな人間性や社会性の前提となる他者とかかわるための力を育成する必要があるとの考え方にに基づき、他者とかかわるための力を育成することのできる学習活動を構想し、位置づけた学級における道徳教育推進計画の試案を作成することができた。

キーワード：豊かな人間性や社会性 他者とかかわるための力 自分を表現する力
相手を受け入れる力 自分と相手とのかかわりを考える力
心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動

はじめに

道徳教育は、他の人や自然、社会などのかかわりをとおして、よりよい生き方を求め実践しようとする人格の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養うことを目的としています。特に、これからの学校教育においては、他の人を思いやる心やボランティア精神など、社会の一員として主体的に生きるための資質や能力である社会性をはぐくむことが重要な課題として強調されてきています。

最近の子どもたちのなかに、友達と協力し合って活動することに価値を見いだせず、相手の立場に立って考えたり、相手の気持ちを分かろうと努力したりすることができずにいる傾向がみられます。この原因として、他の人や集団とのかかわりを深める体験活動をとおして、人間関係の在り方を学ぶ機会が減少していることや、他の人と協力して行う活動を計画的、発展的に取り入れ、人間関係づくりの基盤となる資質や能力を培おうとする指導の手だてが十分ではなかったことがあげられます。

このような状況を改善していくためには、道徳教育を実践する基盤となる学級において、他とのかかわりのなかで自己の在り方を見直す活動を生かし、自己理解や他者理解が深まるような道徳教育推進計画を立案し、その活用を図ることをとおして、心が通い合う人間関係づくりを進めていく必要があります。

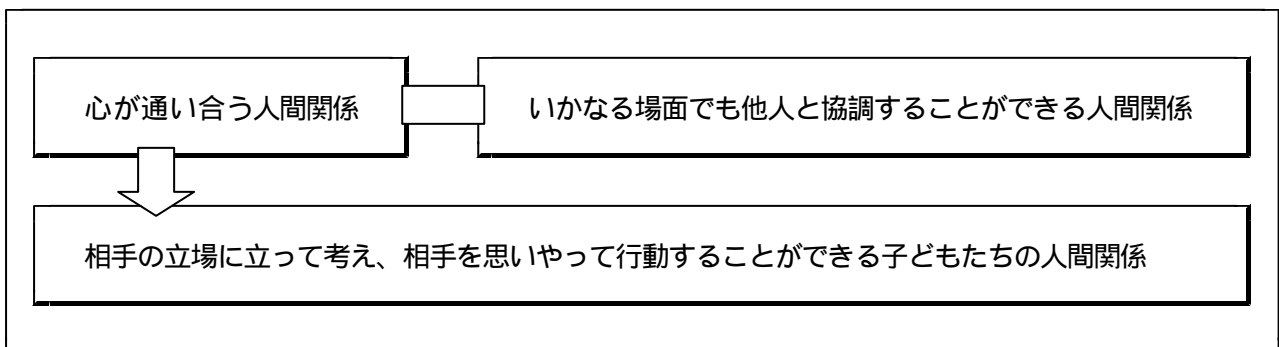
そこで、この研究は、他とのかかわりのなかで自己の在り方を見直す活動を生かした学級における道徳教育推進計画を作成し、その活用をとおして、心が通い合う人間関係をはぐくむ道徳教育の在り方を明らかにし、幼稚園、小・中学校の道徳教育の充実に役立てようとするものです。

心が通い合う人間関係をはぐくむ道徳教育の在り方についての基本的な考え方

1 心が通い合う人間関係とは

子どもたちに[生きる力]を培うことをねらいとして学習指導要領が改訂されました。[生きる力]とは、「いかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を送れるようになるために必要な、人間としての実践的な力」です。

本研究が掲げる「心が通い合う人間関係」とは、図1に示すように「いかなる場面でも他人と協調する」ことのできる人間関係と同義であると考えます。さらに、目指す子どもの姿を、「相手の立場に立って考え、相手を思いやって行動することができる子ども」ととらえ、そのような子どもたちがつくる人間関係こそが心が通い合う人間関係であると考えます。



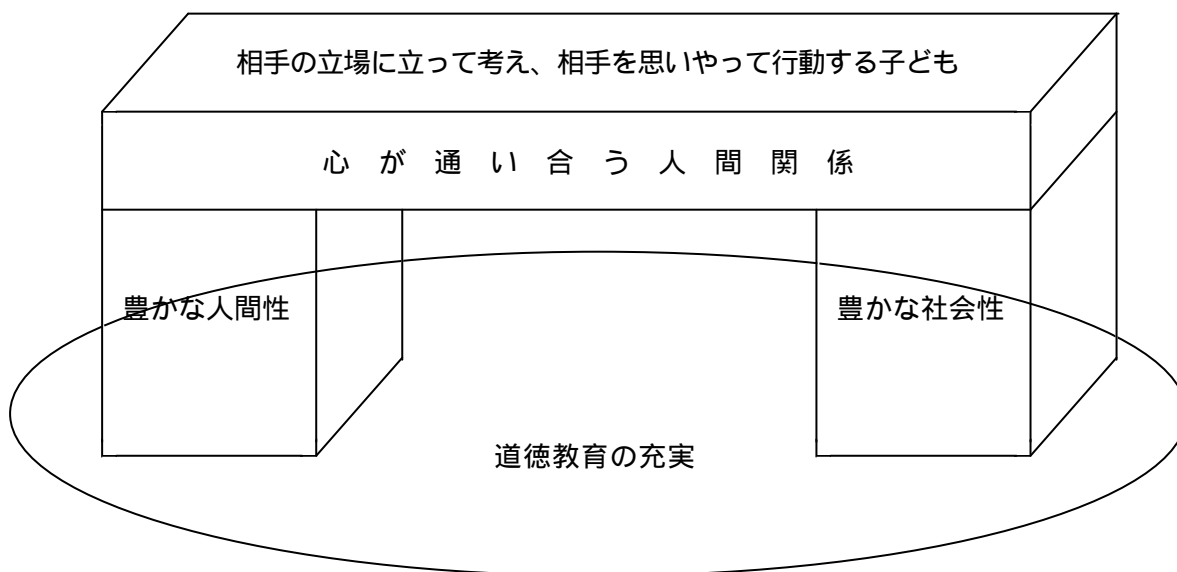
【図1】心が通い合う人間関係のとらえ方

2 心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の意義

学習指導要領の改訂にあたっては、次の四つの方針が示されました。 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること 自ら学び、自ら考える力を育成すること ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実させること 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること

方針の第一番目に、「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」が掲げられています。これは、[生きる力]を培うためには、まず、その支えとなる豊かな人間性や社会性を育成することが大切だからです。[生きる力]を支える豊かな人間性や社会性とは、人間として、また、社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力のことであり、それは、豊かな道德性でもあると考えられます。

本来、豊かな人間性や社会性は、家庭生活をはじめ、学校や地域社会におけるさまざまな体験活動をとおして実践的にはぐくまれるものです。ところが、子どもたちを取り巻く環境の変化とともに、そのような体験活動も失われつつあります。このようななかで、子どもたちに豊かな人間性や社会性（道德性）を育成するためには、図2に示すように幼稚園や小学校、中学校における道德教育の一層の充実を図る必要があります。



【図2】心が通い合う人間関係と道德教育のかかわり

心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の在り方に関する基本構想

1 学級における道德教育推進計画とは

道德教育は、学級における指導が基盤となります。それは、子どもの個性や実態をよく把握している担任が、その個性や実態を生かした指導を行うことができるからです。

また、学級における道德教育を進めるにあたっては、学級における指導計画等をもとに行われます。小・中学校学習指導要領解説道德編によると、学級における指導をどのように行うのかを、具体的に

計画する必要があるとしており、学級における道徳教育を展開していく上での指針となるものです。

ところで、本研究が取り上げる「学級における道徳教育推進計画」とは、学級における指導計画をより効果的に押し進めるものであり、以下に示す考え方に基づくものです。

学級における道徳教育推進計画

学級における道徳教育推進計画とは、心が通い合う人間関係をはぐくむために必要な豊かな人間性や社会性をよりよく育成するために、その前提ともなる他者とかかわるための力を短期間で重点的に育成するものである。そのために、心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動を構想して位置づけるものである。

2 他者とかかわるための力

他者とかかわるということは、まず、様々な手段や方法で互いの気持ちや考えをやりとりすることです。そして、互いの気持ちや考えをやりとりするなかで、互いの立場に立って考え、自己及び他者への理解を深めることです。さらに、自己及び他者への理解を深めるなかで、自己の在り方を考えることです。以上のことから、本研究では、他者とかかわるための力を、幼児、児童、生徒のそれぞれの発達段階別に、次のようにおさえました。

自分を表現する力（表現力）

幼児 自分の気持ちや考えを、言葉や身ぶりなどで表す。

児童 自分の気持ちや考えを、相手に理解してもらえるように表す。

生徒 自分の気持ちや考えを、相手に同意してもらえるように表す。

相手を受け入れる力（受容力）

幼児 相手がどのような気持ちでいるか（どのようなことを考えているか）をとらえる。

児童 相手がなぜそのような気持ちになったか（なぜそのようなことを考えたか）をとらえる。

生徒 相手はどんなにばいと思っているか（どうしたいと考えているか）をとらえる。

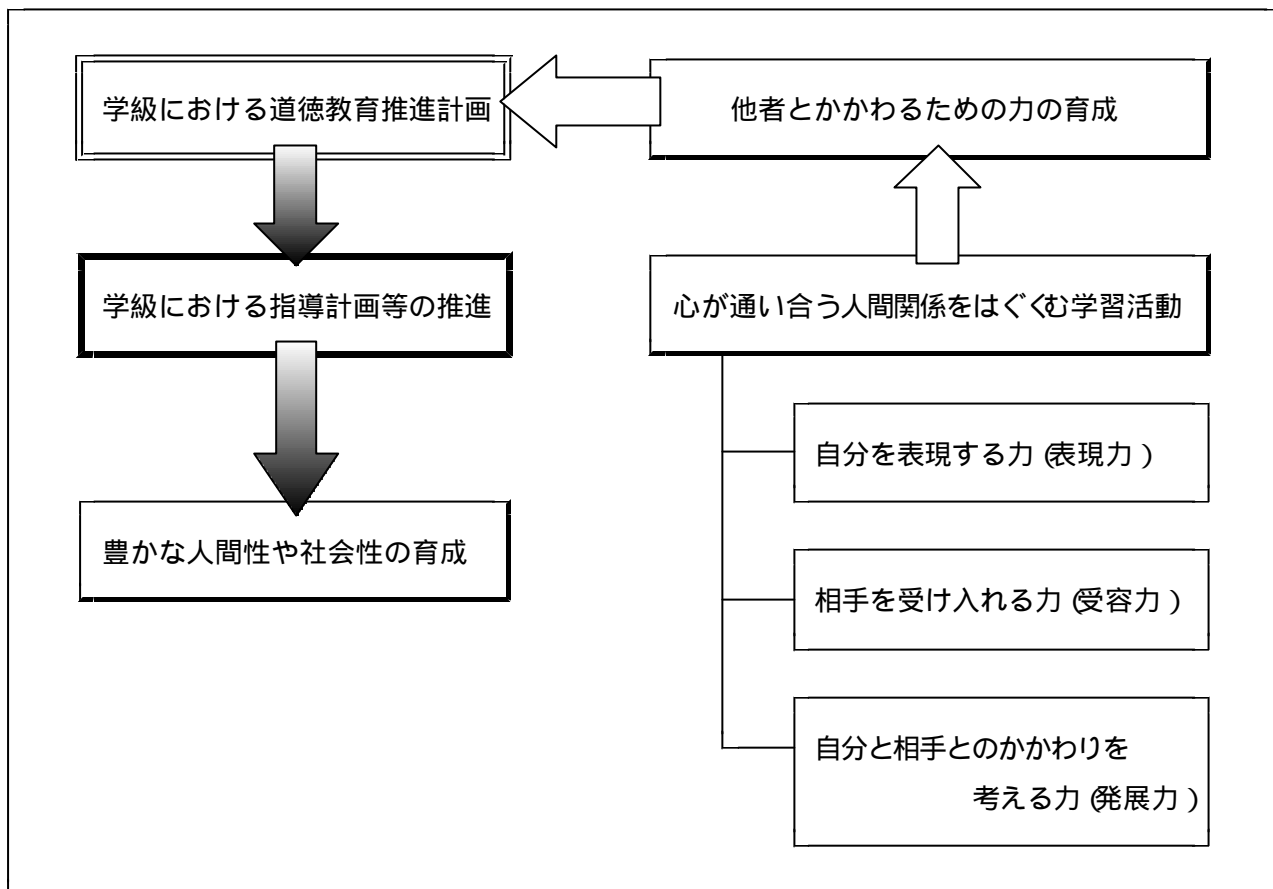
自分と相手とのかかわりを考える力（発展力）

幼児 相手の希望や期待、意向に応じた行動をとろうとする。

児童 相手の希望や期待、意向ではないが、相手のためにした方がよいと思うことや相手のためになると思う行動をとろうとする。

生徒 相手の希望や期待、意向と自分の気持ちや考えの違いを調整し、両者にとってよいと思う行動をとろうとする。

学級における道徳教育推進計画、他者とかかわるための力、及び心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動の関係を【図3】のようにまとめました。



【図3】学級における道徳教育推進計画の考え方

3 心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動

心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動とは、自己及び他者への理解を深め、自己の在り方を考えることのできる学習活動であり、また、他者とかかわるための力である表現力、受容力、発展力の三つの力を育成するための学習活動です。

本研究は、以下に示す三つの手だてを組み込んだ心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動を構想し、学級における道徳教育推進計画のなかに位置づけることによって、自己及び他者への理解を深め、自己の在り方を考えることができるとともに、三つの力を育成することができるものと考えます。

問題の重要性に気づき、解決への意欲をもつ。
 問題を見つめ、道徳的価値を追究し把握する。
 問題の解決方法を試し、実践への見通しをもつ。

三つの手だては、具体的には次のとおりです。

問題の重要性に気づき、解決への意欲をもつこと

三つの力を主体的に身に付けさせるために、三つの力がかかわる問題を資料として提示し、その重要性に気づかせるとともに、問題の解決への意欲をもたせる。そのために、効果的な資料提示の方法を工夫する。

問題を見つめ、道徳的価値を追究し把握すること

三つの力を内面から身に付けさせるために、三つの力がかかわる問題を話し合う場を設定し、その問題を見つめさせるとともに、そこに内在する道徳的価値を追究し把握させる。そのために、小集団等による効果的な話し合いの方法を工夫する。

問題の解決方法を試し、実践への見通しをもつこと

三つの力を実践的に身に付けさせるために、三つの力がかかわる問題の解決方法を模擬体験することができる場を設定し、実際に問題の解決方法を試させるとともに、実践への見通しをもたせる。そのために、効果的な体験の方法を工夫する。

4 学級における道徳教育推進計画の作成

学級における道徳教育推進計画は、次の観点で作成するものとします。

幼児、児童、生徒それぞれの発達段階を踏まえ、幼児用、低学年児童用、高学年児童用、生徒用の合計4種類の計画を作成する。

学習活動に要する1単位時間を、幼児用30分、児童用45分、生徒用50分とし、合計5～6単位時間からなる計画を作成する。

表現力から受容力、受容力から発展力へと、三つの力を段階的に関連させて育成する計画を作成する。

5 学級における道徳教育推進計画の活用

学級における道徳教育推進計画は、次の観点で活用するものとします。

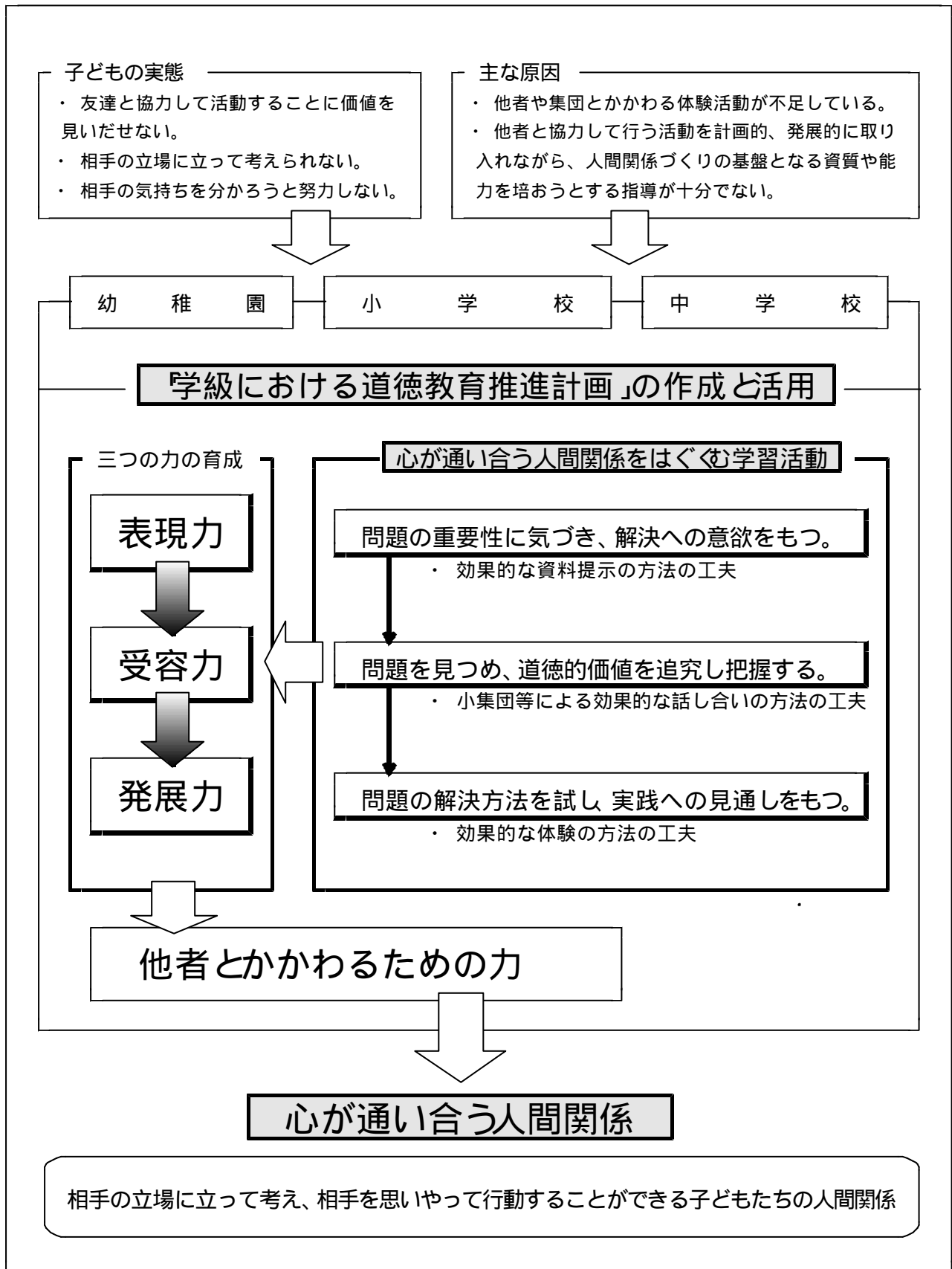
大きな行事等のある時期を避けて活用し、学習活動に対する意識の連続を図るようにする。

1週間程度の間隔で学習活動を行うとともに、小・中学校においては道徳の時間として位置づける。

学習したことがさらに意識づけられ、実践への意欲が高まるように、生活のめあてに取り上げたり、具体的な生活の場面で積極的に励ましたり助言したりする等の手だてを工夫する。

6 心が通い合う人間関係をはぐくむ道徳教育の在り方に関する基本構想

これまで述べてきた心が通い合う人間関係をはぐくむ道徳教育の在り方に関する基本構想を、次頁【図4】にまとめました。



【図4】心が通い合う人間関係をはぐくむ道徳教育の在り方に関する基本構想図

心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の在り方に関する調査及び調査結果の分析と考察

1 調査の概要

他者とかがかわることや自己を表現すること、他者を受け入れること等について調査し、学級における道德教育推進計画の試案作成に必要な資料を得ることを目的として、研究協力園・学校の幼児、児童、生徒を対象に【表1】に示した観点と内容で調査を行いました。

【表1】心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の在り方に関する調査の観点と内容

幼児用		
番号	観 点	内 容
1	他者とかがかわることに対する意識の傾向	ひとりで遊ぶのと、お友達と遊ぶのとどちらが好きですか。
2	遊びの傾向	ひとりで遊ぶときに、何をして遊ぶのが好きですか。 お友達と遊ぶときに、何をして遊ぶのが好きですか。
3	他者とかがかわるうえでの問題の有無とその内容	お友達と遊んでいるときに、何か困ったことや、嫌だなあと思ったことはありませんか。 ----- それは、どんなことですか。
児童・生徒用		
番号	観 点	内 容
1	自己を表現することに対する意識の傾向	あなたは、学級のみなどと話すことが好きですか。
	自己を表現することができない理由	どうして話すことがきらいですか。
2	他者を受け入れることに対する意識の傾向	あなたは、学級のみなどの話を聞くことが好きですか。
	他者を受け入れることができない理由	どうして聞くことがきらいですか。
3	グループを構成する際の構成員の人数に対する意識の傾向	あなたは、グループで何か話し合うとき、何人ぐらいがやりやすいですか。

2 調査結果とその分析

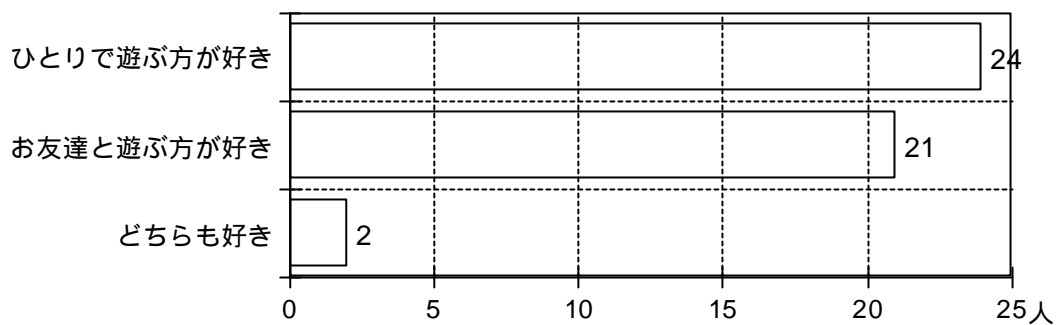
(1) 幼児用

ア 他者とかがかわることに対する意識の傾向

次頁【図5】は、ひとりで遊ぶのと、友達と遊ぶのとどちらが好きかを質問した結果です。「ひとりで遊ぶ方が好き」が24人、「お友達と遊ぶ方が好き」が21人、「どちらも好き」が2人でした。このことから、ひとりで遊ぶのと友達と遊ぶのとどちらが好きかは、ほぼ二分されており、どちらも好きと回答した幼児が少ないことが分かります。また、ひとりで遊ぶ方が好きな幼児が、お友達と遊ぶ方が好きと回答した幼児よりも若干多いことが分かります。

質問 1 ひとりで遊ぶのと、お友達と遊ぶのとどちらが好きですか。

N = 47



【図 5】他者とかかわることに対する意識の傾向

イ 遊びの傾向

【表 2】は、ひとりで遊ぶ場合と友達と遊ぶ場合のそれぞれの場合について、何をして遊ぶのが好きかを質問した結果です。ひとりで遊ぶ場合は、複数回答が少なく、「～ごっこ遊び」、「ブロック」、「ボール」の順番に回答が多くなっています。また、友達と遊ぶ場合は、複数回答が多く、「～ごっこ遊び」、「ブロック」、「遊具」の順番に回答が多くなっています。このことから、ひとりで遊ぶ場合と友達と遊ぶ場合の遊びの種類は共通しているものが多く、また、ひとりで遊ぶ場合より友達と遊ぶ場合の方が、遊びの種類が増えていることが分かります。

【表 2】遊びの傾向

質問 2 何をして遊ぶのが好きですか。

「ひとりで遊ぶ方が好き」及び「どちらも好き」を選択した幼児の回答 N = 26 (複数回答あり)

- | | |
|----------------|---------------|
| ・ ～ごっこ遊び (11人) | ・ 絵描き (1人) |
| ・ ブロック (7人) | ・ 縄跳び (1人) |
| ・ ボール (3人) | ・ ケンケンパー (1人) |
| ・ 遊具 (2人) | ・ かけっこ (1人) |
| ・ ピアニカ (1人) | |

「お友達と遊ぶ方が好き」及び「どちらも好き」を選択した幼児の回答 N = 23 (複数回答あり)

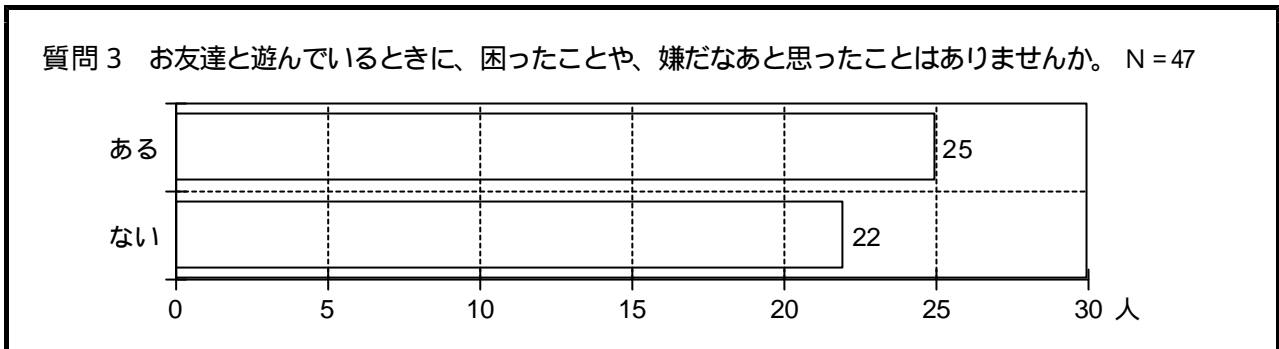
- | | |
|---------------|------------|
| ・ ～ごっこ遊び (9人) | ・ 絵描き (3人) |
| ・ ブロック (7人) | ・ 絵本 (2人) |
| ・ 遊具 (6人) | ・ 折り紙 (2人) |
| ・ 縄跳び (4人) | ・ ボール (2人) |
| ・ 積み木 (3人) | ・ 粘土 (1人) |

ウ 他者とかかわるうえでの問題の有無とその内容

次頁【図 6】は、友達と遊んでいるときに、困ったことや嫌だったことがあるかを質問した結果で

す。「ある」と回答した幼児が25人、「ない」と回答した幼児が22人でした。このことから、約半数の幼児が、困ったことや嫌だったことがあることが分かります。

また、【表3】は、友達と遊んでいるときに、困ったことや嫌だったことがあると回答した幼児の具体的な回答内容です。「仲間に入れてもらえなかった」が一番多く、次いで、「けんかをした」、「たたかれた」、「話をきいてもらえなかった」が多かったです。このことから、疎外されることや活動中のけんかなどにかかわることが主な内容であることが分かります。



【図6】他者とかかわるうえでの問題の有無

【表3】他者とかかわるうえでの問題の内容

質問3 続き (あると回答した幼児に、)それは、どんなことですか。 N = 25

- ・ 仲間に入れてもらえなかった(6人)
- ・ けんかをした(3人)
- ・ たたかれた(3人)
- ・ 話を聞いてもらえなかった(3人)
- ・ 遊んでもらえなかった(2人)
- ・ 怒る人がいた(2人)
- ・ けんかをする人がいた(2人)
- ・ 謝っても許してもらえなかった(1人)
- ・ 無理に誘われた(1人)
- ・ その他(あるのだが忘れた)(2人)

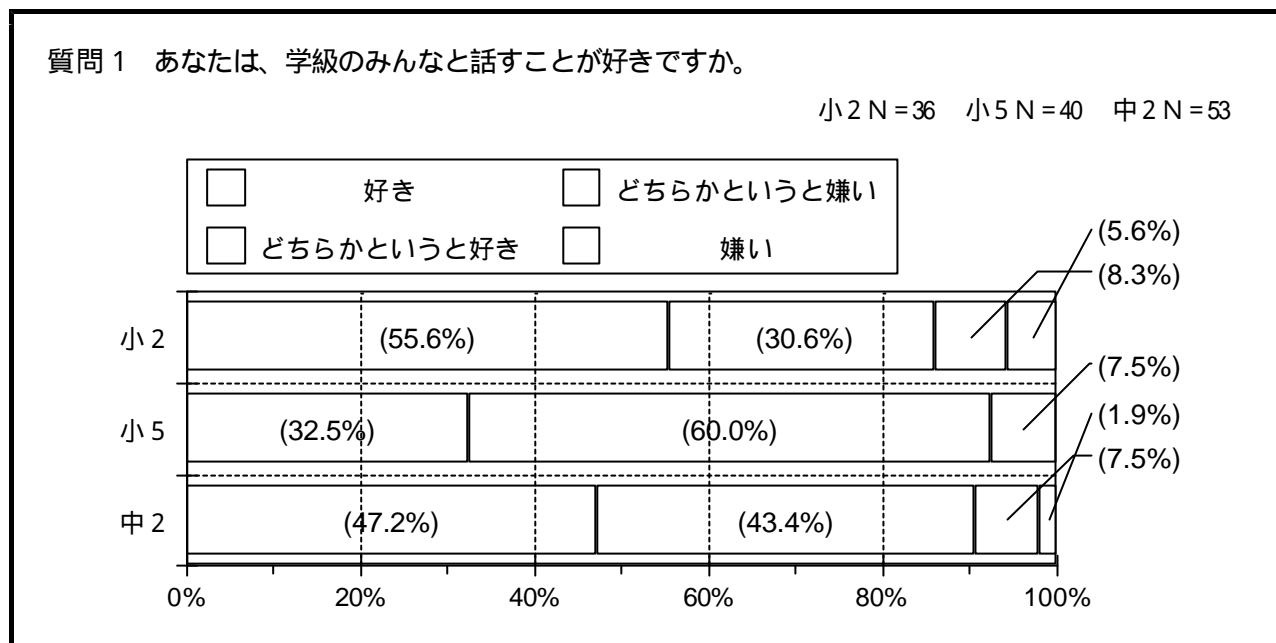
(2) 児童、生徒用

ア 自己を表現することに対する意識の傾向

次頁【図7】は、学級のみennaと話すことが好きかを調べた結果です。「好き」と「どちらかというと好き」を合わせると、小学校2年生が86.2%、小学校5年生が92.5%、中学校2年生が90.6%になります。このことから、学級のみennaと話すことについては、好ましい感情を抱いている児童、生徒が多いことが分かります。

次頁【表4】は、学級のみennaと話すことが「嫌い」、または「どちらかという嫌い」と回答し

た児童、生徒に対して、どうして話すことが嫌いなのかを調べた結果です。小学校2年生では「思うように話せないから」、小学校5年生と中学校2年生では「話した相手に何か言われると嫌だから」、さらに、中学校2年生ではその他の回答が多かったです。このことから、学年が進むにつれて相手の存在が起因してくることが分かります。



【図7】自己を表現することに対する意識の傾向

【表4】自己を表現することができない理由

質問1 続き どうして話すことが嫌いですか。

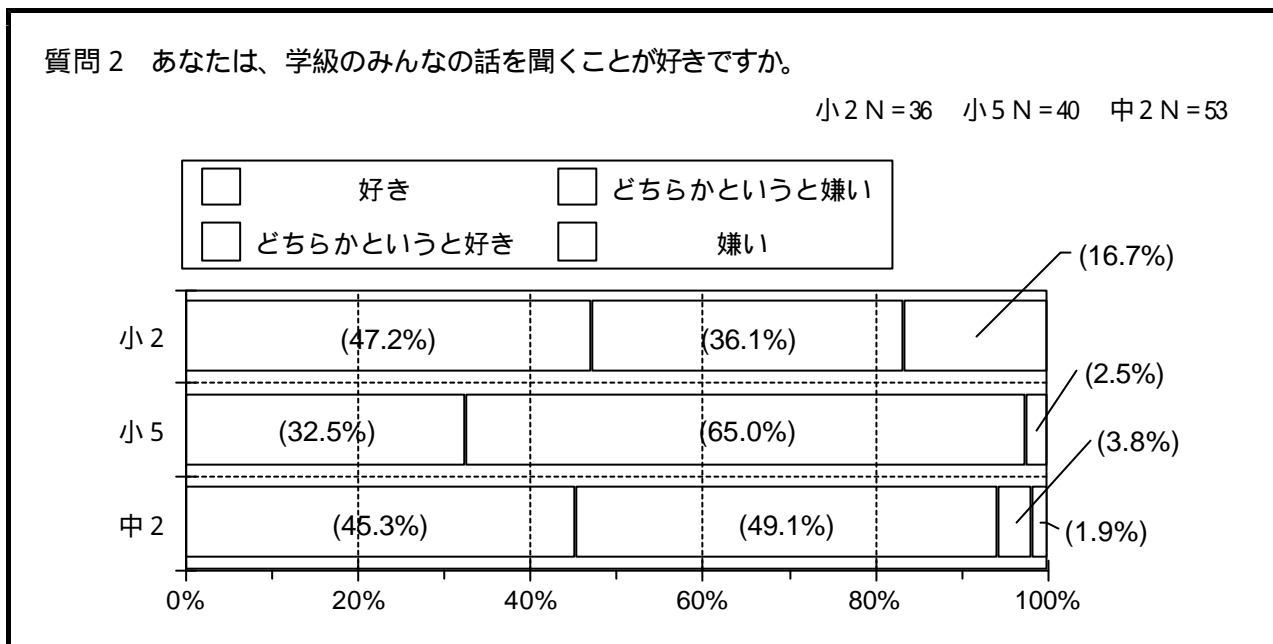
理 由	小2 N=5 小5 N=3 中2 N=6		
	小2	小5	中2
緊張するから	0人	0人	0人
恥ずかしいから	0人	0人	0人
話した相手に何か言われると嫌だから	1人	2人	2人
思うように話せないから	3人	1人	1人
その他	1人	0人	3人
・ 友達が聞いてくれない(小2)			
・ 話が合わないから(中2)			
・ 面倒くさい(中2)			
・ 相手に話を合わせてばかりでつまらないから(中2)			

イ 他者を受け入れることに対する意識の傾向

次頁【図8】は、学級のみんなの話を聞くことが好きかを調べた結果です。「好き」と「どちらか

という好き」を合わせると、小学校2年生が83.3%、小学校5年生が97.5%、中学校2年生が94.4%でした。このことから、学級のみんなの話を聞くことについては、好ましい感情を抱いている児童、生徒が多いことが分かります。

【表5】は、学級のみんなの話を聞くことが「どちらかという嫌い」、または「嫌い」と回答した児童に対して、どうして話を聞くことが嫌いなのかを調べた結果です。小学校2年生は「聞いても分からない」という回答が多かったです。中学校2年生の回答にはばらつきがありました。このことから、低学年のうち、言語を聞き取る能力の不足が起因していることが分かります。



【図8】他者を受け入れることに対する意識の傾向

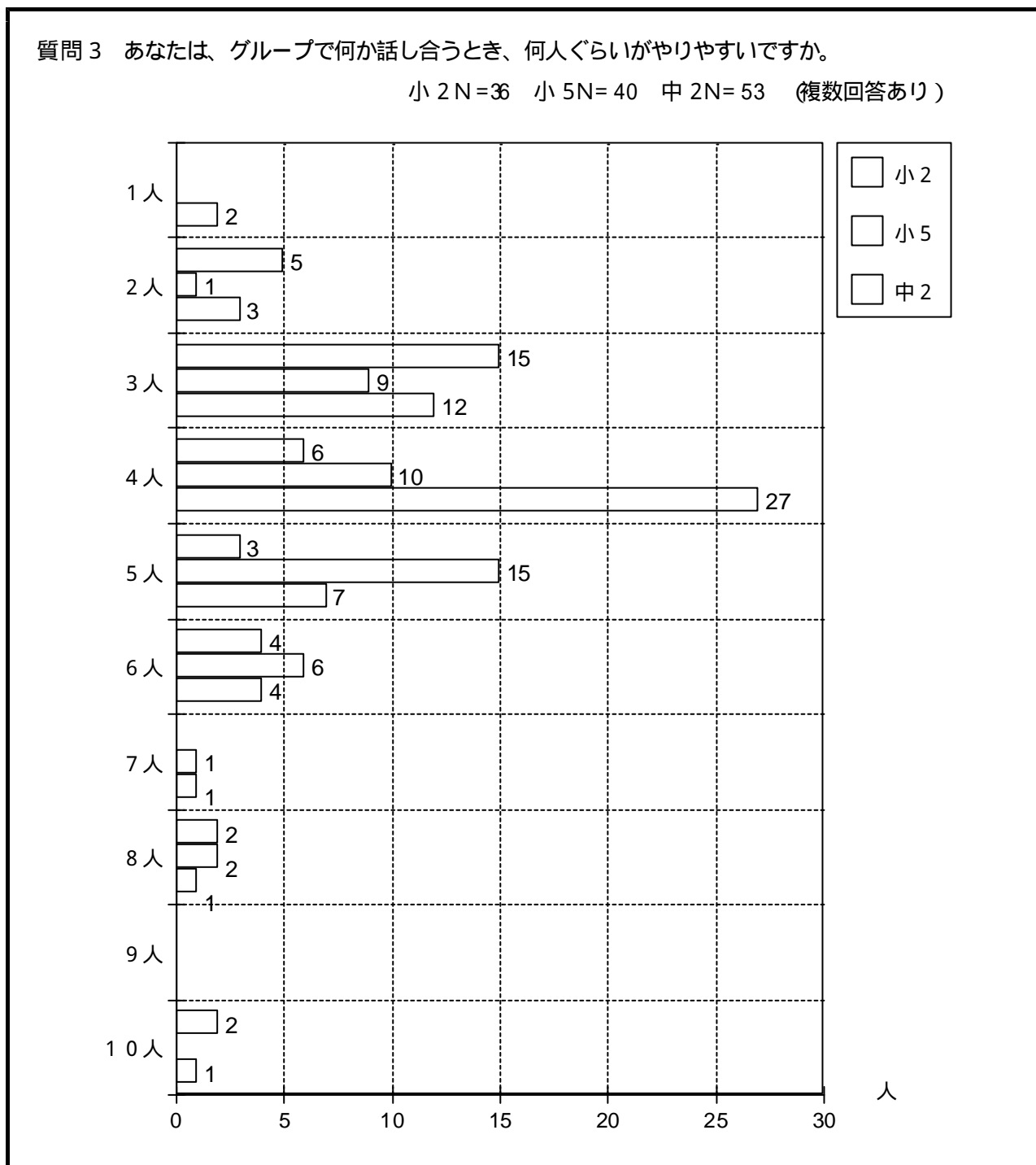
【表5】他者を受け入れることができない理由

質問2 続き どうして聞くことが嫌いですか。

理由	小2 N=5 小5 N=3 中2 N=6		
	小2	小5	中2
めんどうくさいから	1人	0人	0人
つまらないから	1人	1人	1人
自分には関係ないと思うから	0人	0人	1人
聞いても分からないから	3人	0人	1人
その他	2人	0人	1人
・ 飽きるから (小2)			
・ 一方的な話だから (小2)			
・ 興味がないから (中2)			

ウ グループを構成する際の構成員の人数に対する意識の傾向

【図9】は、グループで何か話し合うとき、何人ぐらいがやりやすいかを調べた結果です。小学校2年生は「3人」が15人で最も多く、以下「4人」、「2人」の順でした。小学校5年生は「5人」が15人で最も多く、以下「4人」、「3人」の順でした。同じく、中学校2年生は「4人」が27人で最も多く、以下「3人」、「5人」の順でした。このことから、「3人」から「5人」の間が多いことが分かります。



【図9】グループを構成する際の構成員の人数に対する意識の傾向

3 調査結果の考察と試案作成の留意点

幼児及び児童、生徒に行った調査の結果を以下のように考察するとともに、学級における道德教育推進計画の試案作成にあたっての留意点を明らかにしました。

ア 幼児の調査から

ひとりで行う活動と友達と共に行う活動を使い分けたり組み合わせたりする。

「～ごっこ遊び」や「ブロック遊び」、「遊具での遊び」等の手法を取り入れる。

「仲間はずれ」や「けんか」等の日常生活における問題を取り上げる。

イ 児童、生徒の調査から

話し合いの形態や小集団等の構成の仕方を工夫して、話しやすい雰囲気をつくる。

具体的で明解な話し合いを組織するようにする。

話し合いのルールを決めて、それを守らせるようにする。

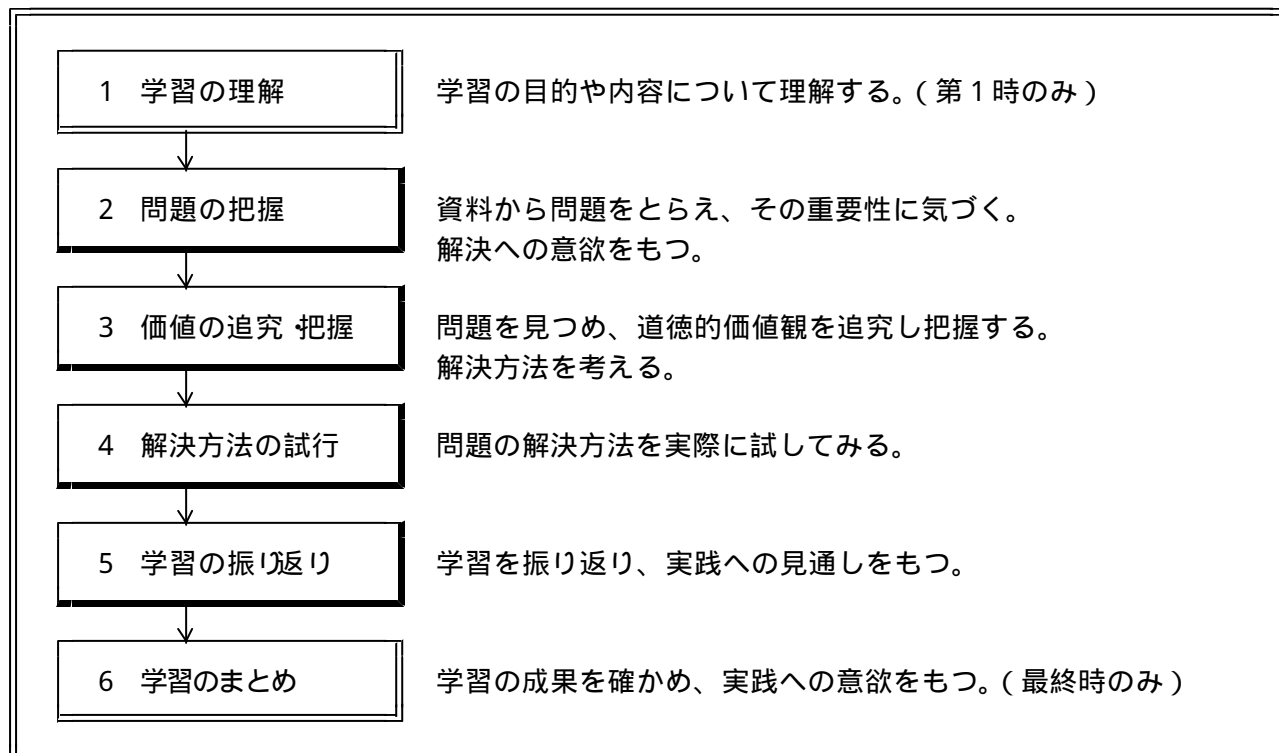
興味関心を高める話題を取り上げる。

学級における道德教育推進計画の試案

心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の在り方に関する基本構想及び調査結果の考察と試案作成の留意点に基づき、学級における道德教育推進計画の試案を次のように作成します。

1 心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動の流れ

心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動は、次に示すように1～6の順番で展開するものとします。ただし、1は学級における道德教育推進計画における第1時のみ、6は最終時のみに行います。また、それ以外の時間は2～5の順番で学習を展開します。



次に、2～5の各段階における展開方法を具体的に示します。

2 問題の把握

問題の把握の段階では、資料を提示することによって問題をとらえさせ、その重要性に気づかせるとともに解決への意欲もつことができるようにします。そこで、右上のような問題を取り上げて資料化します。

また、資料は右のような方法で提示します。

日常生活においてよく見られる問題や避けて通ることのできない問題
興味や関心に基づく問題

劇化
絵や写真
分かりやすい読みもの資料
上記の併用

3 価値の追究・把握

価値の追究・把握の段階では、右のような視点で話し合いを行うことによって、問題を見つめ、道徳的価値を追究し把握することができるようにします。話し合いを進める際には、一人一人の幼児、児童、生徒が主体的に考えることができるように個人での思考と小集団での思考を組み合わせます。

問題の関係者はどんな気持ちか。
問題はどのようにして起こるのか。
問題の状況をどう思うか。
問題を解決するためにどうすればよいと思うか。
問題を解決するためにはどうすべきだと思うか。

4 解決方法の試行

解決方法の試行の段階では、右のような体験活動を取り入れることによって、問題の解決方法を実際に試させ、その有用感や有効性を感じ取ることができるようにします。

即興的に行う役割演技
具体例をまねる動作化
事前に考えてから行う劇化

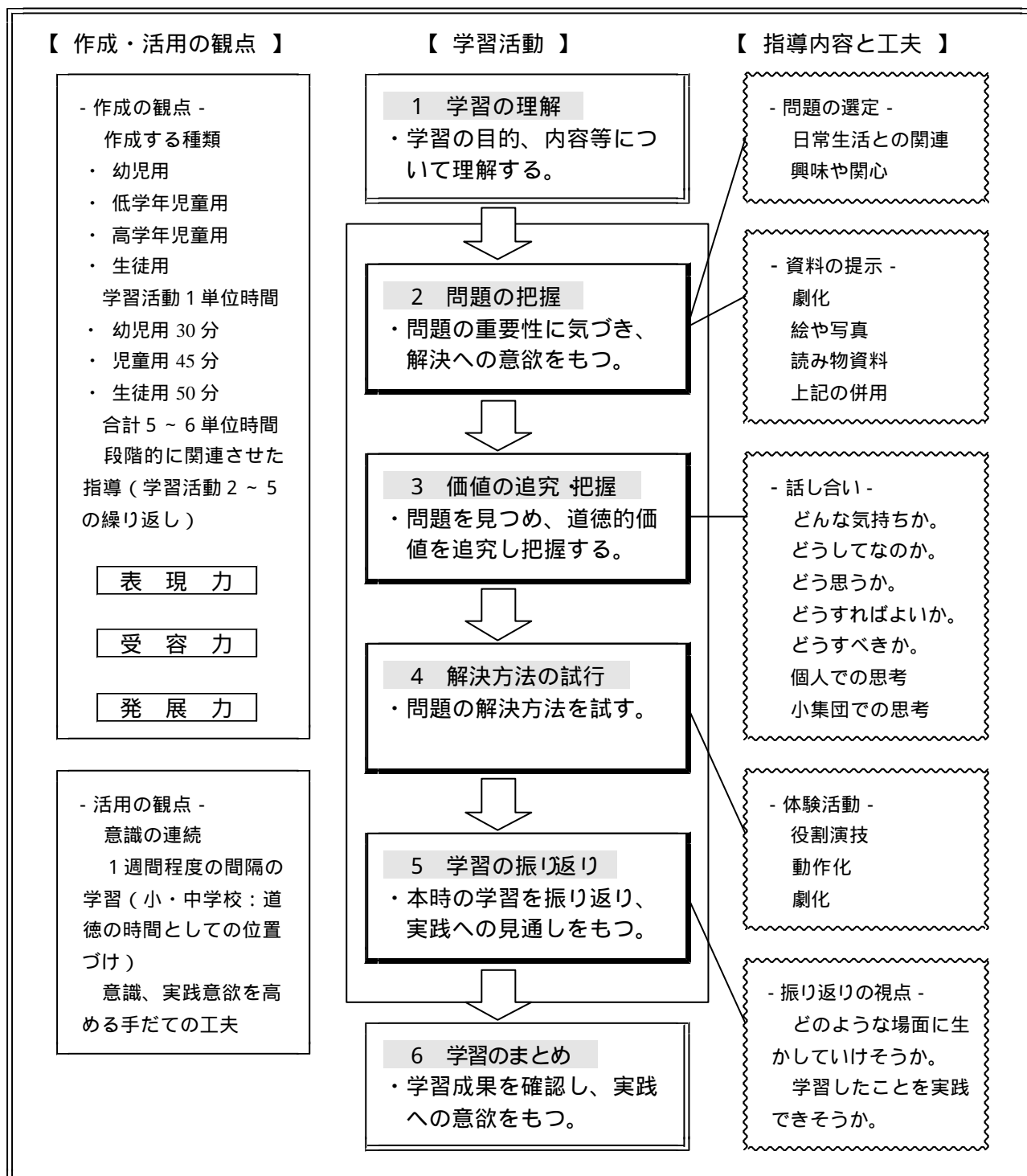
5 学習の振り返り

学習の振り返りの段階では、右のような視点から学習の感想を話し合わせることによって、学習を振り返らせ、実践への見通しをもつことができるようにします。

日常生活のどのような場面に生かしていくことができそうか。
学習したことを実践できそうか。

6 学級における道徳教育推進計画の試案

これまで述べてきたことをもとに、学級における道徳教育推進計画の試案を【図 10】のようにまとめました。



【図10】学級における道徳教育推進計画の試案

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本年度は2年次研究の1年次目として、心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の在り方に関する基本的な考え方を検討するとともに基本構想を立案することができました。また、基本構想に基づく調査を行うとともに調査の結果をもとにして学級における道德教育推進計画の試案を作成することができました。

本年度の研究では、次の点を明らかにすることができました。

- (1) 心が通い合う人間関係をはぐくむためには、その支えとなる豊かな人間性や社会性をはぐくむ必要があり、そのために、学級における道德教育推進計画を作成し活用することによって、これまでの道德教育をより一層充実させればよいのではないかとの基本的な考え方をもつことができた。
- (2) 豊かな人間性や社会性をはぐくむためには、その前提となる「他者とのかかわるための力」を育成する必要があり、そのために、「自分を表現する力(表現力)」「相手を受け入れる力(受容力)」「自分と相手とのかかわりを考える力(発展力)」の三つの力を育成すればよいのではないかとの見通しをもつことができた。
- (3) 「学習理解」「問題の把握」「価値の追究・把握」「解決方法の試行」「学習の振り返り」「学習のまとめ」の各段階からなる心が通い合う人間関係をはぐくむ学習活動を構想することによって、三つの力を育成することができるのではないかとの見通しをもつことができた。

2 今後の課題

本年度の研究をふまえ、試案に基づく実践をとおして、幼稚園、小・中学校における、心が通い合う人間関係をはぐくむ道德教育の在り方について、実践的に究明することが2年次目の研究内容でもあり、今後の課題でもあります。さらに検討を加え、幼児、児童、生徒の実態に即した実践を展開していきたいと考えます。

おわりに

この研究を進めるにあたって、調査にご協力いただいた花巻市ゆもと幼稚園、花巻市立湯口小学校、花巻市立湯口中学校の教職員のみなさまに感謝いたします。

【 主な参考文献 】

- ・ 文部省 『幼稚園教育要領解説』 1999年
- ・ 文部省 『小学校学習指導要領解説道德編』 1999年
- ・ 文部省 『中学校学習指導要領解説道德編』 1999年
- ・ 岩手県立総合教育センター
『豊かな人間関係の育成をめざす道德の時間の指導に関する研究』 1998・1999年
『豊かな人間性をはぐくむ道德教育の在り方に関する研究』 2000・2001年
- ・ 函館市南北海道教育センター
『豊かな人間関係を育む指導と援助に関する研究』 2001年